令和4年度学校評価　次年度の課題　一覧

令和4年度学校評価会議（自己評価）

分　掌	**問題点**《目標（＝あるべき姿）と現状とのギャップ》	**課題**《ギャップを埋めるために必要なこと》**と対策**《具体的な施策》
総　務	にかほ市の指定避難所としての役割分担が確定していない。 令和9年の50周年へ向けて始動する。	《課題》 にかほ市防災課との連携 50周年に向けての組織や意識の醸成 《対策》 1. にかほ市防災課と災害時の役割分担等についての協議を行う。 2. 50周年に向けての意識付けを行う。
教　務	授業改善の取組が学習意欲の充実や学力の向上につながっていない。	《課題》 学びに向かう姿勢の向上 学力の向上 《対策》 1. 観点別評価を効果的に運用する。 2. 学力の向上につながる授業改善を推進する。
生徒指導	校則の改定が行われていないため、生徒が校則を自分ごととして捉えることができず、整容指導やスマホの使用規定などに関して不満も多い。	《課題》 生徒や保護者も巻き込んだ、校則改定に向けた体制づくり 《対策》 1. 生徒や保護者に対し、校則のどのような点に不満や違和感を持っているのか、アンケートを実施して、現行の校則についての要望や意見をとりまとめる。 2. 生徒会をとおして校則改定に関わらせ、校則を自分たちのものとして守っていこうとする態度を育む。
進路指導	早期の進路に対する意識づけがまだ足りない。 インターンシップは六高校のしばりは無くなったが、実施時期、受け入れ先、内容等について、仁賀保高校としての方向性が確立していない。 少人数ではあるが、4年制大学や医療系の進学希望者に対しての指導の在り方が学年部によって異なる。	《課題》 本校独自のインターンシップの在り方の確立 進学指導体制の確立 《対策》 1.　デジタルアカデミックインターンシップの受入先事業所の開拓とともに、進路指導部主導で偏りなく運営するための恒常的な体制をつくる。 2.　生徒の志望先、入試制度等を見ながら、補習だけに頼らない効果的な方策を模索する。総合的な探究の時間が総合型選抜に繋がるように、委員会と連携して企画・指導する。
特別活動	昨年の課題と同様に、部活動の少人数化が一段と進んでおり、大会への出場が難しく、運動部においては、実践的な指導につながらない等、とても厳しい運営状況にある。	《課題》 部・同好会活動を活性化するための環境整備とバランスのよい運営方法の確立 《対策》 1.　年度当初に「部活動紹介」と並行して「部・同好会活動の意義」についての講話を行い、新1年生だけでなく、在校生に対しても「部活動の意義」を意識づける。 2.「部活動紹介」「部活動体験」のあり方を考え、各部で人数を増やすための工夫をする。 3. 総合運動同好会を筆頭に、他の部・同好会も人数を増やすための運営方法を考えて工夫をする。
健康教育	スクールカウンセラーの活用方法の検討が必要で、不登校などの生徒を優先しなければならないが、他の生徒の相談に時間が回らない。また、相談活動についても生徒、保護者への周知活動も必要である。	《課題》 スクールカウンセラーの活用について、保護者・生徒への周知 カウンセリングを必要とする生徒の対応方法についての検討・実施 《対策》 カウンセリング予定が短時間である場合や、時間に余裕が発生した場合には、カウンセラーによる積極的な授業観察や校内における生徒の行動観察を行う。
教育情報	情報モラルの指導に対する生徒及び保護者の評価は良好だが、教員側は指導が足りないと感じている。 情報機器の使用・管理に対する生徒の意識が低く、破損、紛失等を招いている。 図書館があまり利用されていない。	《課題》 生徒・保護者と教員との情報モラルに対する認識のずれに至る具体的な事象の把握 生徒に対する「機器貸与」についての意識付け ICT機器の整備・利活用と図書館利用の両立 《対策》 1. 情報機器の取り扱いや情報モラルに対する意識を調査し、授業や生徒活動に生かす。 2. 機器利用のルール整備と定着を図るとともに、新入生オリエンテーションなどの機会を通じ、保護者にも理解を促す。 3. ICTを活用し、図書委員会と連携して「本」に関する情報提供や要望調査を行う。また、教科や他の分掌と連携し、図書及び図書館を利用する学習活動やイベントを活性化する。